

# 我が職場の安全活動

中津川営林署中津川貯木場 上 田 恵 一

## 1. はじめに

安全活動の基本は、不安全行動をしないために、自然に身に付く安全意識を養い行動することであり、災害の未然防止に活かさなければならない。

そのためには、作業要領の定着など、日常作業の中で最も効果の発揮できる、いわゆる、掛け声だけでなく、作業の中で直感的に判断できる勘の働く安全意識を養わなければならない。

そのため、中津川貯木場では、情報紙「ちょぼくじょう」を発行し、特に今年4月発足した新貯木場での作業仕組、施設などの不備、不馴れなどによる災害を未然に防止するために、次のような取り組みを行った。

## 2. 取り組みの内容

### (1) 情報紙「ちょぼくじょう」の活用

貯木場の作業要領など、身近かなテーマを中心に災害事例などを取り上げ、コピーの不定期情報紙「ちょぼくじょう」を発行し、緑十字の日、安全懇談会などの資料とした。(写真-1~6)

### (2) 「ちょぼくじょう」の家庭版の発行

安全活動に欠かせないのが家庭の協力であることから、家庭版を発行し、家庭と職場のつながりを深めるための安全活動の一助とした。(写真-7・8)

### (3) 新貯木場の発足にあたり、施設の充実、不安全行動の排除など、「安全はすべてに優先する」「決めたことは、すぐ実行する」を最大の目標として、全員の寄せ書きによる決意表明をしながら意識的な行動の堀り起しを行う。(写真-9)

### (4) 安全目標の設定

ア 安全タワーに全員から募集した安全標語の中から2点を選び、職員実行で作成建立する。  
(写真-10)

イ 年間安全目標を各人で決め休憩所の壁面に掲げ、その推進を図っている。(写真-11)

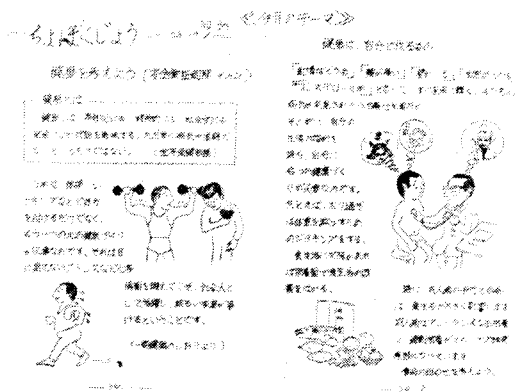
ウ 月間安全目標は、緑十字の日に推進員が提案し全員で決める。(写真-12)

### 3. ま と め

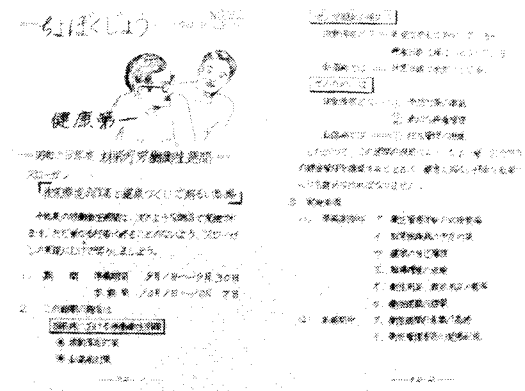
以上の実施結果、特に情報紙「ちよぼくじょう」は、絵を中心として作るため、絵は文字より理解され易く、また記憶にも残り、皆んなに読まれている。また時には討論のネタにもなり、有効に活用されている。

その中で特に積極的に取り上げ、活用を図っているのは災害事例である。危険の芽は小さい内に摘み取り、マンネリ化を打破するため、常に新しいアイデアにより、有効な安全活動の前進を目指し努力している。

これらの安全活動と相まって、旧中津川貯木作業場から15年間、旧岩村貯木場から4年間余の無災害の記録を続けている。

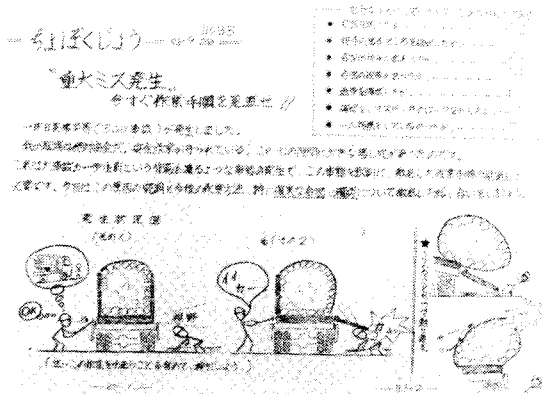


(写真-1) 情報紙「ちよぼくじょう」安全衛生週間

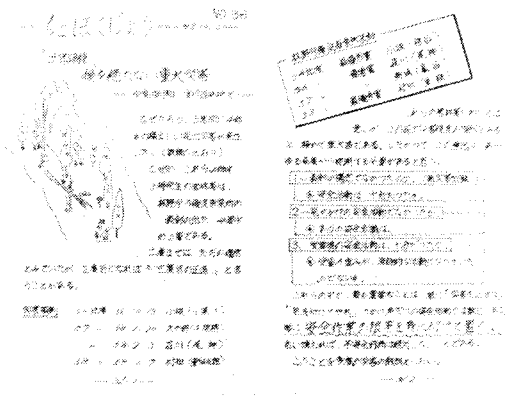


(写真-2) 準備期間に使用

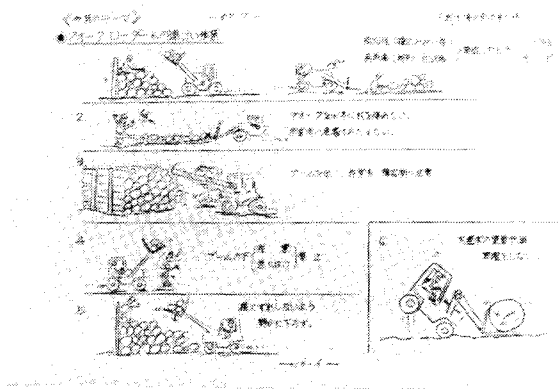




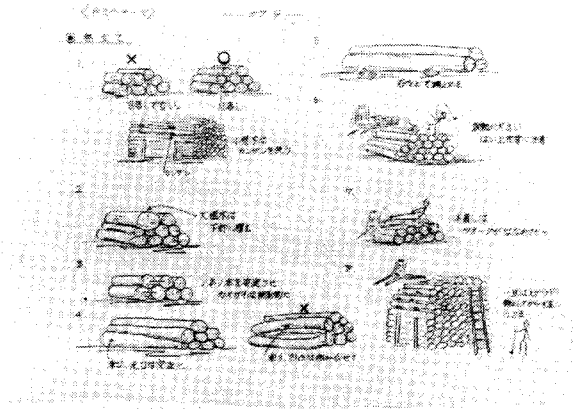
(写真-6) あわや重大災害、作業手順の見直し資料



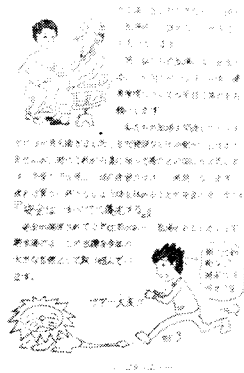
(写真-7) 3年連続、後を絶たない重大災害についての検討資料



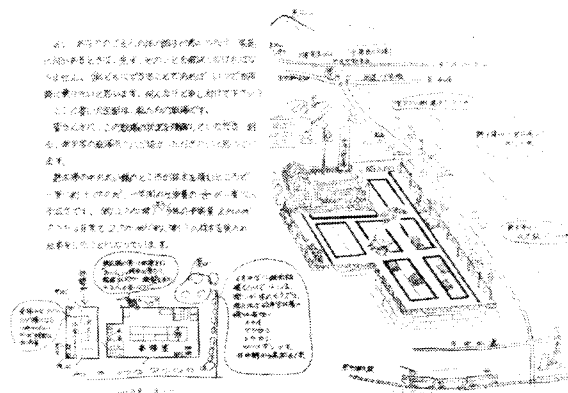
(写真-8) 貯木場の作業要領の学習と再確認のための資料 (フォークローダーとの連け作業)



(写真-9) 同上 (巻立て)



(写真-10) 全国安全週間中の「家庭版」



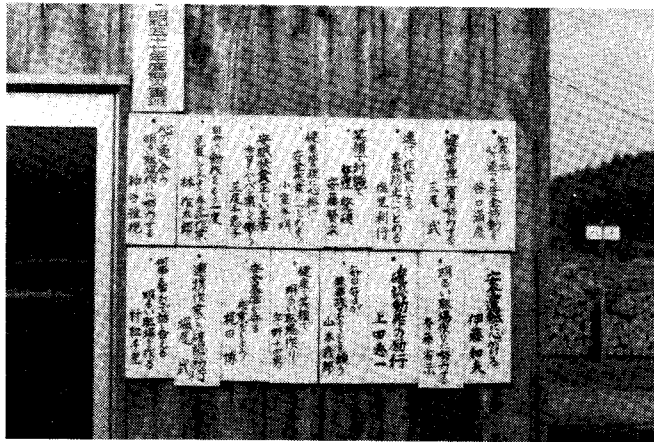
(写真-11) 同上 職場を紹介したもの



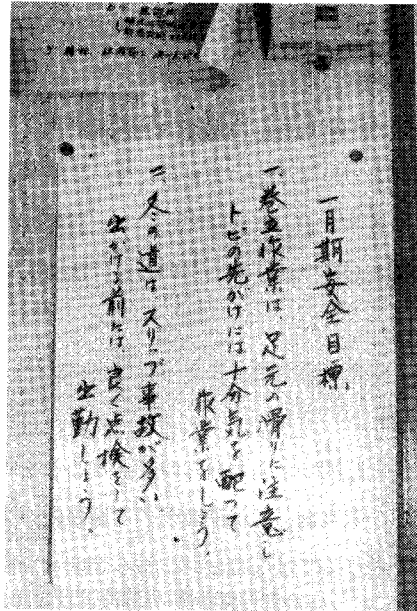
(写真-12) 貯木場発足にあたり、皆んなで頑張りとう自省の寄せ書き額



(写真-13) 自分等で作って建てた安全タワー



(写真-14) 年間安全目標



(写真-15) 月間安全目標